

# 近代漢語「呵」の時間義用法に関する覚え書き(2)

—元刊本『老乞大』における用例から考える—

川 澄 哲 也

(松山大学経済学部 准教授)

---

松 山 大 学  
言語文化研究 第38巻第1 - 2号 (抜刷)  
2018年9月

Matsuyama University  
Studies in Language and Literature  
Vol. 38 No. 1-2 September 2018

# 近代漢語「呵」の時間義用法に関する覚え書き(2)\*

一元刊本『老乞大』における用例から考える一

川 澄 哲 也

## 1 序言

元明期を中心とする近代白話文献ではしばしば、仮定の意味をもつ従属節の末尾に「呵(\*xo<sup>1</sup>)」という要素が添えられる<sup>2)</sup>。

1) 依着他毎的言語裏行呵，怎生？(『大元通制條格』卷七)

「彼らのことばに依って行えば、如何か？」

2) 有聖旨麼道無躰例勾當做呵，不怕那甚麼。(「真定路元氏県開化寺聖旨碑」)

「『聖旨がある』と言ってきまりにないことをすれば、恐れないだろうか。」

3) 敬重天子呵，天下人都權喜。(『孝經直解』)

「天子を敬えば、天下の人は皆喜ぶものだ。」

一方、現代の青海省の漢語諸方言では、仮定義を表す従属節末に「啞[xo]」という要素が現れる<sup>3)</sup>。

---

\* 本研究は JSPS 科研費 17K13452 「中国青海省大通県チベット族居住地域の漢語方言調査研究」の助成による研究成果の一部である。

1) 『中原音韻』に基づく楊(1981: 147)の再構音。

2) 李他編著(1998: 2)、金他訳注(2002: 23)を始めとする多くの先行研究は、元代漢語「呵」は主に「仮定」と「停頓」を表す要素であると記述している(中国語学でいう「停頓」は pause くらい<sup>1</sup>の意)。

3) 青海方言の用例は筆者が実地調査で得たものである。西寧市では趙宗洲氏(1946年生まれ、漢族男性)、大通県では权玉来氏(1951年生まれ、土族男性)にご協力頂いた。

4) [ɕjA<sup>21</sup> ʒ<sup>w44</sup> xo<sup>3</sup> pʒ<sup>44</sup> se<sup>24</sup> t<sup>h</sup>jɪ<sup>21</sup> tsɿ<sup>44</sup> ljA<sup>21</sup>]

下雨噏，比赛停止咧。「雨が降ったら、試合は止めになる。」(西寧市)

5) [pɥ<sup>24</sup> ɕqu<sup>21</sup> ʒ<sup>3</sup> xo<sup>21</sup> tɕju<sup>24</sup> jo<sup>13</sup> ne<sup>21</sup> mA<sup>21</sup> ljA<sup>3</sup>]

不学习噏，就要挨骂咧。「勉強しないと、叱られるよ。」(西寧市)

6) [ni<sup>44</sup> pɥ<sup>24</sup> le<sup>21</sup> xo<sup>31</sup> no<sup>44</sup> tʂ<sup>21</sup> ko<sup>3</sup> sl<sup>21</sup> tɕ<sup>h</sup>jɪ<sup>31</sup> pɥ<sup>21</sup> kwa<sup>44</sup> nA<sup>21</sup>]

你不来噏，我这个事情不管呐。「君が来ないなら、私はこの事に関わらないぞ。」(大通県)

刘(1991)は、上記2要素の間には歴史的なつながりがあると主張した<sup>4)</sup>。以来この考えは多くの先行研究に踏襲されてきた<sup>5)</sup>。これに対し筆者は川澄(2014b)において反論を提出し、川澄(2015)ではその補強を試みた(両論文の詳細は次節参照)。本稿はこの2論文の続編にあたる。

## 2 浅見の梗概

本格的な議論に入る前に、本節では川澄(2014b)、川澄(2015)の概要を示し、これまでの議論を整理しておきたい。

### 2.1 川澄(2014b)の概要と問題点

川澄(2014b)では、主に以下3点の言語事実に基づき、近代漢語「呵」と西寧方言「噏」の継承関係に異を唱えた。

4) 但しこの主張は論証を経て提出されたものではない(“近代白話中的这些‘呵’与青海西宁话的[·xo]，不论是句法位置还是语法意义都是一致的。这些一看便知，无须赘论。需要论证的只是它们的音韵关系”[近代白話における“呵”と青海西寧方言の[·xo]は、統語構造も文法機能も一致している。これらは一目瞭然で、贅言の必要はない。論証を要するのはこれらの音韻関係だけである]刘1991: 373)。なお論証を欠く点は以下の注5に挙げる各先行研究でも同じである。

5) 都(1998: 103)、余(1999: 41)、李泰洙(2003: 45)、李他(2009: 20)、王(2012: 475)等。

- a. 人間言語で「時間を表す要素>仮定を表す要素」という文法化事例は多く見られる<sup>6)</sup>。文法化は単向性(unidirectionality)の性質をもつ現象であるため、「仮定>時間」の方向性は存在し得ない。
- b. 近代漢語「呵」が時間義を表す用法は一般的ではない。
- c. 西寧方言「噉」には時間義を表す用法もある<sup>7)</sup>。

このような言語事実の下、先行研究が主張する「呵」と「噉」の継承関係を認めれば、専ら仮定義を表す「呵」が、時間義をも表す「噉」に発展したという、人間言語では存在し得ないはずの方向性を想定しなければならなくなる。この点に基づき、川澄(2014b)では「呵」と「噉」に歴史的なつながりはないと考えた。

しかしながら、先行研究の中には上記bと逆の見解、つまり「呵」に時間義用法を認めるものもごくわずかながら存在した<sup>8)</sup>。仮にそれが事実であれば、川澄(2014b)の議論は成立しないことになる。そこで、「呵」に時間義用法を認めるという見解が妥当か否かを川澄(2015)で検討した。

## 2.2 川澄(2015)の概要と問題点

川澄(2015)は、明代初期に成立したとされるチンギス・カンの一伝記、『元朝秘史』を利用した研究である。以下にその考察内容を述べる。

モンゴル語には、仮定義表示と時間義表示の2機能をあわせ持つ「仮定副動詞語尾(conditional converbs)」という要素がある。『元朝秘史』はモンゴル語本

6) 具体例については Heine and Kuteva(2002), p. 293 参照。

7) a. [nɔ<sup>44</sup> mɔ<sup>24</sup> ɕqu<sup>21</sup> ʃɔ<sup>44</sup> xɔ<sup>3</sup> mɑ<sup>44</sup> mɑ<sup>44</sup> tɕi<sup>24</sup> lɛ<sup>21</sup> ljo<sup>13</sup>]  
我没学习噉, 妈妈进来了。「私が勉強していない時、母が入ってきた。」(西寧市)

b. [ɕjɔ<sup>44</sup> wɔ<sup>24</sup> pɑ<sup>3</sup> tʂɿ<sup>44</sup> tsɿ<sup>21</sup> tjo<sup>21</sup> xɔ<sup>3</sup> tʂɿ<sup>21</sup> lju<sup>24</sup> ɕqu<sup>21</sup> lja<sup>21</sup> fɔ<sup>31</sup>]  
小王把职辞掉噉去留学啊说。「王君は仕事を辞めてから留学に行くそうだ。」(西寧市)

c. [nɔ<sup>44</sup> lɛ<sup>21</sup> xɔ<sup>3</sup> ni<sup>44</sup> mɔ<sup>21</sup> ju<sup>33</sup>]  
我来噉, 你没有。「私 came 時、君は居なかった。」(大通県)

西寧方言の用例に関しては川澄(2014a)も参照されたい。

8) 矢野・刘(1994)、李立成(1998)。

文と漢語抄訳から構成されるが、もし漢語「呵」にも仮定義表示と時間義表示の2機能が備わっていたのであれば、モンゴル語本文に現れる仮定副動詞語尾は語義ごとの偏りなく「呵」によって訳されることが予想される。

分析の結果、仮定義(「仮定譲歩」を含む)を表す仮定副動詞語尾は、全291例のうち88例において漢語「呵」で翻訳していた<sup>9)</sup>。これに対し時間義を表す仮定副動詞語尾は、全170例のうち、漢語「呵」で翻訳していたのはわずか7か所のみであった。このような極端な偏りに基づき川澄(2015)では、時間義表示は「呵」の基本機能ではなかった可能性が高いという結論を提出した。

しかしながら、わずか7例とは言え、時間義を表すと思われる「呵」が存在したことは看過すべきではなく、「今後、他の近代漢語文献における『呵』の使用状況なども考察対象に含め、引き続き検討を重ねていく必要がある」(川澄2015: 5)とした。

### 3 元刊本『老乞大』における「呵」

前節で述べた流れをうけ、本節では元刊本『<sup>ろうきつだい</sup>老乞大』<sup>10)</sup>(以下『老乞大』)における用例を材料に、近代漢語「呵」の時間義表示機能について再度検討を加えていく。

#### 3.1 仮定義と解釈できる「呵」

『老乞大』における「呵」の用例は全部で93あった<sup>11)</sup>。そのうち、仮定義(「仮定譲歩」を含む)と解釈できるものは76例で、全体の約8割を占める。「呵」の最も一般的な用法であるため、以下に数例を示すにとどめる。

9) 先述のとおり漢語部分は抄訳であるため、仮定副動詞語尾を含むモンゴル語部分の翻訳が省かれていることも多い。モンゴル語と漢語で用例数に開きがある一大要因である。

10) 元朝後期に朝鮮で編纂された、当時の漢語の会話教科書。

11) 筆者の各用例に対する解釈を示すため、稿末に「[附録]『老乞大』における「呵」の用例一覧」を付したので参照されたい。

- 7) 那般打了呵, 則是不怕。「どれほど叩かれても、怖がりません。」(2-b-7)<sup>12)</sup>
- 8) 不弃嫌小人呵, 是必家裏來。「私を嫌いでないなら、必ず家に来て下さい。」(13-a-3)
- 9) 大家得些睡呵, 明日不渴睡。「皆眠ることができれば、明日うたた寝しないだろう。」(16-a-9)
- 10) 你道的是呵, 两三句話便成了交易。「君の言うことが正しいなら、二言三言で交渉成立だ。」(23-a-2)
- 11) 一箇脚行呵去不得有。「1本の足では行っても行けないのである。」(31-b-6)
- 12) 這般呵, 我待近日迴程幾日好? 「そうであれば、私は近々帰るが、何日が良いんだ?」(39-b-3)

### 3.2 仮定義と解釈できない「呵」

続いて本節では、仮定義とは解釈できない残り 17 例の「呵」について考える。まず、以下の数例を観察されたい。

- 13) 你這般學漢兒文書呵, 是你自意裏學來那你的爺娘教你學來? 「君がこのように漢人の書物を学ぶのは、自分から学んでいるの? それとも親御さんから学ぶように言われたの?」(2-a-9)
- 14) 那賊將那人的纏帶解下來看呵, 却是紙, …「その泥棒がその人の胴巻きを解いて見ると、何と紙きれで、…」(8-b-3)
- 15) 疾忙擡肉呵散者。「早く肉を担いできて、散会しよう。」(30-a-7)
- 16) 俺買呵, 買一兩箇自穿的不是。「私が買うのは、1、2着買って自分で着るんじゃない。」(36-a-5)

このうち例 13、14、16 については、「呵」のもう 1 つの主要機能である「停顿」(注 2 参照)を表していると考えられる。一方、用例 15 については、時間

12) 括弧内は用例の出現箇所を表す。「葉数 - 表 (a)/ 裏 (b)- 行数」の順に記す。

義(先後関係)を表しているとも解釈できそうである(「担いできて、その後、散会しよう」)。しかし、先後関係を表す場合、漢語では無標識で対応するのが一般的で、それは『老乞大』においても同様である。以下、数例引用する。

17) 不付能哀告借将来。「やっとのことで頼んで借りてきた。」(6-a-4)

18) 咱每打馳駈行。「私たち荷造りして行こう。」(17-b-10)

19) 你引俺看去來。「私を連れて見にいてくれ。」(19-a-9)

20) 你去問主人家,「主人のところへ聞きに行つて、」(19-b-7)

つまり例15の「呵」は、先後関係を表す際、必須の要素ではない。この点に基づくと、用例15の「呵」は特に具体的な意味はもっておらず、2つの動詞句間に挿入されて、やはり停頓の役割を果たしていると解釈できる。『老乞大』中で「停頓」を表す「呵」は、例13-16を含め、全部で16例あった。

残りの1例は「那般好呵(それは良かった)」という用例で現れる(21-a-6)。これについては「那般呵好(それなら良かった)」の誤記である可能性もある<sup>13)</sup>が、本稿では誤記ではなく感嘆の語気を示すと考えておく<sup>14)</sup>。

#### 4 『元朝秘史』における「時間義の『呵』」の再検討

前節の内容を踏まえると、川澄(2015)で時間義を表すとした『元朝秘史』漢訳中の7つの「呵」について再考の必要が生じる。2.2節で述べたとおり、川澄(2015)ではモンゴル語の仮定副動詞語尾がもつ2つの語義(仮定/時間)を基準にして漢語「呵」の用法を分析するという考察方法を採用した。そのため、「停頓」を表す「呵」を考慮に入れる機会がなかった。本稿では、モンゴル語本文との対応関係を考えず、漢語だけに着目して用例を改めて検討しな

13) その場合、この「呵」は仮定義と分類される。

14) 「呵」に感嘆語気表示機能があることは、太田(1958: 374)や李他編著(1998: 2)に記述されている。

してみたい。以下に該当例を掲げる。

- 21) 望見一箇人来到呵，果然是李端察兒。「一人のひとが来るのを眺め見ると、果たしてポドンチャルであった。」 (§ 32)
- 22) 回去看呵，扳胸肚帶依舊扣着，「戻って見ると、鞅、肚帯をつけたまま、」 (§ 80)
- 23) 鎖兒<sup>中</sup>罕失<sup>舌</sup>刺家裏宿呵，他的沉白、赤老温名字的兩箇兒子，心裏憐憫我。「ソルカン・シラの家泊ると、彼のチンバイ、チラウンという名の二人の子は心で私を哀れに思った。」 (§ 84)
- 24) 聽着這記號行呵，聽得打馬孛子聲。到他家裏入去呵，鎖兒<sup>中</sup>罕失<sup>舌</sup>刺說…「その印を聞いて行くと、馬乳を打つ音が聞こえた。その家に入ると、ソルカン・シラが言うには…」 (§ 85)
- 25) 那夜兼行到天明看呵，札刺亦<sup>舌</sup>兒種的人<sup>中</sup>合赤温、<sup>中</sup>合<sup>舌</sup>刺<sup>中</sup>孩、<sup>中</sup>合<sup>舌</sup>闌<sup>勅</sup>歹這三箇脫<sup>中</sup>忽<sup>舌</sup>刺温兄弟每也隨着來了。「その夜道を急いで夜明けに到って見ると、チャイル族のカチウン、カラカイ、カラルダイのトグラウン三兄弟も来ていた」 (§ 120)
- 26) 將忽闌試驗呵，果然不曾被汗。曰此成吉思甚加寵愛。「クランを試すと、果たして汚されていないかった。そのためチンギスは寵愛した。」 (§ 197)

上記7つの「呵」はいずれも、前節で掲げた『老乞大』の用例14と類似しており、「停頓」の役割を果たしていると捉えなおすことができる<sup>15)</sup>。このように解釈しなおすことにより、『元朝秘史』に時間義表示と考えなければならぬ「呵」は存在しないことになり、2.2節で触れた「問題点」は、問題視する必要がなくなる。

15) 川澄(2015)では「時間義を表す『呵』」と表現したが、これは正しくは「時間義を表す仮定副動詞語尾の漢訳に用いられた『呵』」と表現すべきところであった。そのため、これらの「呵」が時間以外の意義を表すと捉えなおしても問題はない。



## 5 結語

本稿では『老乞大』における「呵」の用例を分析し、青海方言「喞」が「呵」に由来するという刘 (1991) 以来の先行研究の主張を再検討した。「呵」に時間義を表す用法が確認できれば両要素の間に継承関係を想定することも可能になるが、『老乞大』にそのような「呵」はなかった<sup>16)</sup>。また本稿での考察に基づくと、川澄 (2015) で時間義を表すとした『元朝秘史』中の7つの「呵」も、時間義ではなく「停顿」と見ることができることを指摘した。これらの議論により、川澄 (2014b) の主張はより一層裏付けられたと考える。

### 参 考 文 献

- 川澄哲也 (2014a) 「西宁方言里表示动作次序的“喞”」『福岡大学人文論叢』46-2, pp. 351-361.  
 -----(2014b) 「西宁方言“喞”与近代汉语“呵”的来源关系再考」『中国語研究』56, pp. 51-55.  
 -----(2015) 「近代漢語『呵』の時間義用法に関する覚え書き(1) —『元朝秘史』におけるモンゴル語假定副動詞語尾の漢訳方法から考える—」『福岡大学研究部論集』(A: 人文科学編) 14-2, pp. 1-66.  
 都兴宙 (1998) 「近代汉语的“呵”与“後”」『青海师范大学学报(社会科学版)』1998-1, pp. 101-104.  
 Heine, Bernd and Tania Kuteva(2002) *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 金文京・玄幸子・佐藤晴彦訳注 (2002) 『老乞大—朝鮮中世の中国語会話読本』東京: 平凡社.  
 李立成 (1998) 「《醒世姻缘传》里的句末语气词“可”」『中国语文』1998-4, pp. 304-308.  
 李泰洙 (2003) 『《老乞大》四種版本語言研究』北京: 語文出版社.  
 李崇興・黄树先・邵則遂編著 (1998) 『元語言词典』上海: 上海教育出版社.

16) なお「～する時」という典型的な時間義を表す場合、近代漢語では主に「時」を用いる(川澄 2014b, p. 53 参照)。この点は『老乞大』でも同様であった。以下に3例挙げる。

- a. 初喂時, 則將料水拌與他, 「初めて餌をやる時は、ゆで水をそれに混ぜて、」(7-b-1)
- b. 我先番大都來時, 你這店西約二十里來地有一坐橋塌了來, 「先般大都に來た時、この店の西約20里のところ橋が崩れていたのだが、」(8-a-1)
- c. 俺正飢渴時, 主人家這般與茶飯喫, 「空腹で喉が渴いていた時、ご主人がこうして食事を下さったので、」(12-b-7)

明確に「～する時」を表す「呵」は他文献を通じても発見されておらず、この点は「喞」(注7、用例 a, c 参照) との大きな違いであると言える。

李崇兴・祖生利・丁勇(2009)『元代汉语语法研究』上海：上海教育出版社。

刘勋宁(1991)「青海西宁话表示假设的语气词[·xə]与近代白话的“呵”」『纪念王力先生九十诞辰文集』371-376. 济南：山东教育出版社。

矢野贺子・刘一之(1994)『《孝经直解》语法札记』『聖徳学園岐阜教育大学紀要』27, pp. 167-185.

太田辰夫(1958)『中国語歴史文法』東京：江南書院。

王双成(2012)「西宁方言的介词类型」『中国语文』2012-5, pp. 469-478.

杨耐思(1981)『中原音韵音系』北京：中国社会科学出版社。

余志鸿(1999)「元代汉语假设句的后置标记」『语文研究』1999-1, pp. 38-42.

### 〔附録〕『老乞大』における「呵」の用例一覧

- ・『老乞大』の「呵」全用例について、出現箇所および筆者の解釈による語義を記す。
- ・出現箇所の表記方法は「葉数 - 表 (a)/ 裏 (b)- 行数」である。同じ行に複数の「呵」が出現する場合は行数の後にさらに数字を付けて表す。
- ・『老乞大』研究においては金他訳注(2002)を参照する研究者も多いと思われるので、各用例について金他訳注(2002)の第何話に出現するかも記す。同一話内に複数の「呵」が現れる場合は枝番号を付す。

No.	出現箇所	金他訳注(2002)	語義	47	31-a-1	85	仮定
1	1-a-8	1	仮定	48	31-a-5-1	86-1	仮定
2	2-a-9	4	停頓	49	31-a-5-2	86-2	仮定
3	2-b-7	5	仮定譲歩	50	31-a-7	86-3	仮定
4	3-a-3	6-1	仮定	51	31-a-9	86-4	仮定
5	3-a-4	6-2	仮定	52	31-b-1	86-5	仮定
6	3-b-3-1	8-1	仮定	53	31-b-5-1	87-1	仮定
7	3-b-3-2	8-2	仮定	54	31-b-5-2	87-2	仮定譲歩
8	3-b-7	8-3	仮定	55	31-b-6	87-3	仮定譲歩
9	7-a-9	17	仮定	56	31-b-7	87-4	仮定
10	7-b-3	18	仮定	57	31-b-10	88-1	仮定
11	8-a-3	19	仮定	58	32-a-5	88-2	仮定
12	8-b-3	20	停頓	59	32-a-6	88-3	仮定
13	9-a-7	22	仮定	60	32-a-7	89-1	仮定
14	9-b-2	23	仮定	61	32-a-8	89-2	仮定
15	12-b-8	33	仮定	62	32-a-9	89-3	仮定
16	13-a-3	34	仮定	63	32-b-1-1	89-4	仮定
17	14-a-6	38	仮定譲歩	64	32-b-1-2	89-5	仮定
18	14-b-9	40-1	仮定	65	32-b-2	89-6	仮定
19	15-a-2	40-2	仮定	66	32-b-4	89-7	仮定
20	15-b-2	41	仮定	67	32-b-5	89-8	仮定
21	15-b-7	42	仮定	68	32-b-6	90-1	仮定
22	16-a-9	43	仮定	69	32-b-7	90-2	仮定
23	18-b-10	50	仮定	70	32-b-8	90-3	仮定
24	19-b-1	52-1	停頓	71	33-a-3-1	90-4	仮定譲歩
25	19-b-4	52-2	仮定	72	33-a-3-2	90-5	仮定譲歩
26	20-b-1	55	仮定	73	33-a-6	90-6	仮定譲歩
27	20-b-9	56	仮定	74	33-a-7	91	停頓
28	21-a-6	57	感嘆	75	33-b-5	92	停頓
29	22-a-1	59	仮定	76	34-a-4	94-1	停頓
30	23-a-2	62-1	仮定	77	34-a-6	94-2	停頓
31	23-a-3	62-2	仮定	78	34-a-9	95-1	停頓
32	23-a-5	62-3	仮定	79	34-b-8	95-2	仮定
33	23-b-6	64	仮定	80	35-b-2	97	停頓
34	24-a-1	65	仮定	81	36-a-5	98-1	停頓
35	26-a-7	71	仮定	82	36-b-1-1	98-2	停頓
36	27-a-4	73	仮定	83	36-b-1-2	98-3	停頓
37	27-b-1	74-1	仮定	84	36-b-7	99-1	停頓
38	27-b-6	74-2	仮定	85	36-b-10	99-2	仮定
39	28-a-1	76-1	仮定	86	37-a-1	99-3	仮定譲歩
40	28-a-2	76-2	仮定	87	37-a-2	99-4	仮定
41	28-a-3	76-3	仮定	88	37-a-3	99-5	仮定
42	29-b-3	82-1	仮定	89	37-b-8	102	仮定
43	29-b-6	82-2	仮定	90	39-b-2	105-1	停頓
44	29-b-7	82-3	仮定	91	39-b-3	105-2	仮定
45	30-a-7	83	停頓	92	40-a-1	106-1	停頓
46	30-b-2	84	仮定	93	40-a-2	106-2	仮定